

沖縄の痛み忘れて

4・28式典広がる反発

「主権回復の日」として4月28日を祝う式典を開く安倍晋三首相の方針に、県内で反発が広がっている。沖縄無視、植民地扱い。県民は戦後も続く苦難の歴史をひもとき、安倍政権の方針に強く非難の矛先を向けている。

1955年に沖縄タイムスに入社し東京で記者をしていたフリージャーナリス

トの由井晶子さん(79)は、「沖縄が切り離された後、本土の人は沖縄を忘れ去った」と振り返る。沖縄が意識されるのは50年代後半の「島ぐるみ土地闘争」を全国紙が報じてから。だがその後、「基地の島」への同情的な視線を向

けるだけだった。「沖縄戦でひどい目に遭わせ、思い出したら同情だけ。半世紀以上たった今、切り捨てられた沖縄の痛みを、すっかり忘れてる。4・28を祝うのはその象徴だ」と指摘した。

「沖縄無視の始まり」。県民の反対にもかかわらずオスプレイを強行配備し、普天間飛行場の県内移設を進める政府の変化を指摘。「50年代に忘れていたのはまだ許せるが、これだけ沖縄の要望を知りながら無視するのはがまんならない」と憤り、沖縄が反対を訴え続ける必要性を強調した。

普天間飛行場の大山ゲート前で抗議行動を続ける沖縄市の照屋秀伝さん(75)は「日本の主権は回復し、沖縄の多くの権利が奪われ

た」と皮肉を込める。米軍施政下の27年間、政治、経済、教育まで米国の圧力に虐げられてきたと振り返る。

オスプレイ強行配備など、復帰した今も状況は変わらないと感じる。「主権回復の日を認めれば、苦しんで亡くなった沖縄の先人が亡霊となって出てくる」と語った。

「安

倍首相をはじめ日本政府は、沖縄の歴史を十分知った上で式典を開催するつもりだろう。知らないはずはない」と考える。

「琉球国を武力併合した上に戦場に、敗北すれば敵国に引き渡す。日本は、沖縄を植民地にしたから、自らの都合のいいように使う。そのようにして、現在も基地を押しつけている」と指摘。その上で「普天間基地の県内移設やオスプレイ配備に『オール沖縄』で反対する中、このような式典の企画、実施とは、沖縄を今後とも植民地にするという宣言だ」と話した。

モズ

2

キンザーなど初飛来

オスプレイ 浦添市が抗議

【中部・北部】米軍普天間飛行場のオスプレイ1機が8日午前8時10分ごろか

市)とキャンプ・コートニー(うるま市)を含む中北部の米軍基地に飛来した。両基地の訓練の一環とみられる。浦添市は同日、沖縄防衛局と米軍に電話で抗議した。

時半まで飛行するといった日本側に通知した後、入試に配慮して午前9時55分までに終わると再度通知した。浦添市に6日に入った連絡では、近く予定される米海兵隊幹部の来県に備えた訓練という。

キンザーには、浦添市屋富祖、宮城、仲西などの各地域の上空を通り、国道58号東側から着陸。市当局は、

来てよかった

福島と沖縄と

東日本大震災2年

福島で暮らす若者 佐藤夏美

「今回の測定で放射性物質は検出されませんでした」。今年1月、福島県相馬市の佐藤夏美(21)は、届いた内部被ばく測定評価報告書を読んだ瞬間、全身の力が抜けた。「よかった」。市が実施した2週間ほどの前の検診結果に異常はなかった。日ごろ意識していな

ら高校卒業まで温泉は水泳に関わ

